

学校課題研究授業④ 9月24日（平成25年度）

学校課題

自分の言葉で考え、伝え合える児童の育成

－基礎的な力をもとに、思考を広げ表現できるようにする取組－

本校では、上記のような学校課題を設定し、研究に取り組んでいます。

本年度は、言語力の基礎となる語彙力を育成し、さらに思考力・表現力を豊かにしていきたいと考えています。そこで、伝え合う力を「共感的な人間関係を土台に、豊かな語彙をもち、適切な言葉を選んで自分の考えを広げたり深めたりする力」ととらえ、言語力の向上をめざして研究を進めていきます。

今回は、1年生の国語で、今年度重点とした二次（につぐ）の段階の授業でした。説明文の学習における単元を貫く言語活動の中でも、三次（さんつぐ）での作文やその発表に向けて、一次（いっつぐ）で読み取ったことをもとに文章の組み立てを考え、理解するところです。

元気いっぱいの子どもたちで、大きな声で返事をしたり、上手に音読をしたり、意欲的に話をしたりして、一生懸命学び合うことができました。そして、2つの授業の視点「文の仲間分けのために文カードを用いたことは、書かれている事柄の順序を読み取るのに有効であったか」、「小グループで話し合う活動は、安心感の中で主体的に伝え合うことにつながったか」について成果もあり、研究を深めることができました。

簡単な説明文の構成を学ぶ段階では、今回のように色分けしたり、切り分けたりした「文カード」を操作しながらの活動が有効でした。1年生にしては難しい内容でしたが、視覚的にわかりやすく扱えやすく、カードを動かす作業をしながら話し合ったり、思考を深めたりすることができました。

課題の自覚や聞く力など未熟な部分もありますが、この段階から小グループの話し合いを取り入れ、経験を積ませていくことは大切です。事前の学習で話す内容をもてるようにしてあることや意欲のもととなる興味・関心を高めてあることが必要です。また、何を話し合うのか明確な発問が重要です。すべてを満たす必要はありませんが、話し合いを支援するツール、話し合い活動のネーミング、人数・隊形・内容などの条件設定、立場を明確にしての対立する意見での話し合い、十分話せたという充足感がもてる時間の確保など、さまざまな工夫が考えられます。

小グループの話し合い活動での、思考・判断・表現などの評価をどのように行うかは、研究の主要な課題の一つです。今回の指導者である宇都宮大学附属小学校山中勇夫先生、下野市学校教育課指導主事の高山靖子先生からは、以下のようなアドバイスをいただきました。1単位時間ですべての子を見取ろうとせず、何回かの同様な活動の中で計画的に全員をカバーしていけるとよいでしょう。評価のためでなく、授業はあくまでもねらいを達成するため、全員がしっかりできるようにするために展開していくことが大切です。

山中先生からは、今後、授業を構想するうえでのアイデアとして、発問・作業指示・発表・説明のテンポのよい繰り返しと、ダメなことと比較することでよいものを理解することの有効性のお話もいただきました。

